

# 阪神淡路大震災救援記録



堺ロータリークラブ

阪神大震災救援特別委員会

震災文庫

5

250

▶ 救援物資輸送のワゴン車



◀ たいへん喜ばれた生ジュース



▲ 炊き出しの学校校庭に集まった被災者

◀ 森公園で昼食の弁当



00097003022

▶カラオケ大会



▲校庭で炊き出しの準備

▶救援活動について  
地での打ち合わせ



◀車椅子のまま乗れるリフト付きの寄贈車

寄贈

震災文庫 5 - 250



## 目 次

写 真	
会長挨拶 .....	2
1. はじめに .....	4
1-1 委員会設置 .....	4
1-2 活動準備 .....	5
1-3 現地の状況把握 .....	5
2. 救援活動方針並びに計画 .....	8
2-1 救援活動・実施年月日・場所 .....	9
2-2 現地地図 .....	11
2-3 RMM救援活動 .....	13
3. 救援活動委員会報告 .....	14
4. 救援活動報告 .....	22
5. クラブフォーラム記録 .....	32
6. 外部団体への寄贈 .....	34
7. 阪神大震災救援募金収支報告 .....	37
8. 委員長挨拶 .....	38
9. 感謝状・礼状（写し） .....	40
10. 編集後記 .....	45

# 会 長 挨 拶

1994—1995年度 会長

入 江 正 治

阪神淡路大震災において当クラブが実施した救援活動記録の発刊に際し、一言御挨拶を申し上げます。

1月17日発生した大地震は大都市の直下型地震としては未曾有のものであり、テレビの映像からもその被害の甚大なことが伝えられ、当クラブとしてもその救援をせねばと痛感させられた。早速、当クラブ内に特別プロジェクトチームを作り速やかに救援活動を開始した。

現地との連絡は被災直後の混乱の中では充分とる事も出来ず、被災地へも行き如何にすべきかを模索した。偶然の奇縁からやっと連絡のとれた神戸東灘ロータリークラブと相談し、両クラブ提携して救援活動を進めることとなった。

今までのロータリー奉仕活動は、金を出すあまり身体は動かさない傾向にあった。今回は義援金一千万円の募金目標と同時に、救援活動に全員汗を出す奉仕をお願いすることにした。

後に詳述した如く、当クラブ内に救援対策本部を設置し、救援活動委員会を発足させ、時事刻々と変化する現地状況に対応できるようにした。

同委員会で大綱方針を定めて会長、幹事、委員長が神戸に行き、東灘ロータリークラブの会長、副会長と一緒に東灘保健所長等と会合し、具体的な救援活動について検討した。

最初の緊急救援は医療活動であり、その詳細はRMM活動報告の通りである。救援活動の実施は状況が変動していく現地の要望に沿うべく、委員会を16回開催し、救援物資輸送、炊き出し、コンサート、カラオケ大会などの救援活動は8回実施した。その間多数の会員、家族、従業員、事務職員の方々がこの活動に参加し、汗の奉仕をして頂いた。

募金は開始後40日間で目標額を突破、また西野会員の友人である米国サウスベニスRCのブラッド氏から送金があり感激した。さらに会員には救援物資を原価での提供をお願いしたが、金はいらないからと無償でご寄贈頂いたものもあり、全会員に厚くお礼申し上げます。次第である。

クラブ員以外にもローターアクト、堺シティーオペラの方々、クラリオネットの演奏をして下さった堺東ロータリークラブの会員などから協力して頂いた。

このほかにも炊き出しに協力していただいた星光(株)の調理師と、リーガロイヤルホテルの従業員の方々、輸送をお願いしたサザン・トランスポート・サービス株式会社の力強い援助があった。このように今回の救援活動は堺ロータリークラブ以外にも他クラブや、喜んで色々な形で奉仕に参加して下さった多くの人の、心温まる協力を得て行うことができた。

5月には現地も一応の落ちつきを取り戻し、救援方法も検討し直す事になった。例会のフォーラムを2回開催し、全会員の意向を聞き外部団体への寄贈を検討した。

救援活動委員会の最後の仕事として神戸東灘ロータリークラブと協同で、被災外国留学生145名に援助金を渡し、東灘区役所内のボランティア組織に車1台を寄贈して救援活動委員会の任務はすべて終了した。

最初、東灘区役所に救援活動の打ち合わせで行った時に、保健所長から細くてもよいから長く続けて欲しいとの要望があった。そしてこの車の贈呈によって高齢者や、障害者に対する救援活動が細く長く続けられることになり、やっとその要望に応えることが出来た。

今回の救援活動はクラブ全員が汗を流しての奉仕であり、またクラブ外の方々の応援もあり、永くその記録を留めておくべきとの委員会の決定に基き理事会の承認を経てこの報告書を刊行した。

この報告書は全会員及び関係官庁、関係ロータリークラブと参加された方々（米国のサウスベニスRCにも郵送）にお届けする。

## 1. はじめに

1月17日、午前5時46分、淡路島北端を震源地とした、M7.2の大地震発生、堺市内も震度4以上の強震で当クラブ会員の内にも被災された方もあった程である。テレビでは、神戸地区の想像を絶する倒壊、大火災の状況が放映されそれが時々刻々と増大し居ても立ってもおられぬ思いにかられ被災地区在住の会員宅及び勤務先にお見舞いの電話を入れた。同時に被災地区各ロータリークラブにお見舞いの手紙も発送した。

当クラブも早速会長幹事が阪神地区のRCへ何度も連絡したが不通、たまたま東灘RCと連絡がとれた。

東灘RCは全会員被災、東灘地区も壊滅的打撃を受けたとのこと、当クラブとしても具体的な救援活動を計画実施すべく特別委員会設立の検討を始めた。取り敢えず東灘RCと連絡をとり此処を中心に救援活動を開始し現地の事情を把握して次の計画を立てることにした。

### 1-1 委員会設置

救援活動を推進する為には一つのプロジェクトとして活動する必要がある1月31日堺RC事務室に関係者集合プロジェクト立案運営を打合をした。救援活動の為特別委員会を設置することとし委員は、今年度の理事役員から選出することにした。救援に関係ある社会奉仕・職業奉仕、又堺RC基金より副次的出金があるかもしれぬので夫々の担当理事と会長副会長幹事の六名とし各委員の担当を定めた。

更に医療活動推進の為RMMの磯野幹事と募金の独立会計をする為坂本会計を委員とした。

活動方針としては会員みずから参加し医療支援及び周辺支援活動を現地RCと連絡をとりながら展開する。

活動方針の基本としては救援は単にお金を寄附するのではなく全会員が汗を流しての奉仕をすることにし募金目標を1000万円とした。

2月1日に会長、副会長、委員長が堺市役所訪問救援活動計画を説明今後の指導を依頼した。2月5日に臨時委員会をサンルートホテルで開催、今後外部団体との交渉が多くなるので当クラブ内に救援対策本部を設置。本部長に会長、事務局に幹事が、当たることにし、この本部の下に救援委員会を置くことにした。

その後東灘RCと打合せ、第一回救援活動を2月9日(木)とし、その準備に入った。救援活動は具体的には東灘保健所を接点に堺RC独自の活動体制で行うことにした。

## 1 - 2 活動準備

救援活動で、最も重要なことは、輸送手段の確保であったが、幸い嶋村会員の紹介でサザン・トランスポート・サービス社に依頼、ワゴン車一台、毎週一回、東灘地区へ輸送することにした。初めは、朝5時30分に堺を出発、東灘到着10時30分となる程の渋滞であったのでそれに対応し活動準備をした。

又救援に従事する方々に傷害保険をつける必要があり会員会社の住友海上火災保険に依頼した。

救援活動は物資の調達以外に医療活動が最も必要なので毎回会員の医師、および労災病院の医師から2名以上行ってもらうことにし、ワゴン車内に簡易診察が出来る用意をした。

募金は約一ヶ月で目標の一千万円を達成出来又現地で着用する堺RCのマーク入りのウイドゥブレーカーを始め電子レンジ・電気洗濯機・包丁・風邪薬・体温計等々が会員から寄贈された。又救援期間中携帯電話を無償で提供してもらった。更に物資調達に際しては関係会員から総て原価の納入をお願いした。

このように、各会員の強力なご支援により救援活動が実施出来たもので此処に厚くお礼申し上げる次第である。

また、リーガロイヤルホテル堺にご協力願ひ義援金の一部とするためミリオンダーミールを四回実施してその余剰金を義援金の一部とすることにした。

(潮田 記)

## 1 - 3 現地の状況把握

現地の状況は新聞、ラジオ、テレビだけでは断片的で不十分な情報しか得られなかった。毎回救援活動の内容を決定するには被災地における各避難所の最新情報が不可欠でその毎日々刻々と変化する状況に関しては我々はパソコン通信を介して情報を入手した。パソコン通信の地震フォーラムに日々掲載される東灘地区のリアルタイムな各種情報をダウンロードしそれらを慎重に分析して委員会での活動方針決定の資料とした。その生々しいデータの一部(約200ページ余の中より)を記述する。

(川中 記)



★

記入日 :1/24  
記入者名 :久保有加子-SGQ01704  
避難所名 :友生養護学校  
避難所の住所とTEL :東灘区住吉東町4丁目 078-851-0630  
情報提供者名 :  
避難人数 :150  
必要な物(緊急なものには◎)  
:パン以外の食べ物(温かいもの)、下着(小学~高校)

続き(改行で表示 S:次の発言)

>

供給過剰な物 :タオル、トイレ用ニオイ消し、ビタミン剤、速乾性手指消毒剤、口内殺菌剤、電子レンジ(←殺菌の為)  
人手の過不足 :パン  
:足りているが、職員でやっているの、ボランティアが来てくると助かる  
他のボランティア :なし  
ライフライン :電気、電話  
トイレ事情(聞き取り&目で確認)  
:比較的マシだが、臭いが耐えられない  
交通事情 :トラック駐車可能  
その他 :毎日薬を飲んでいる子供のカルテが災害で無くなったため非常に困っている。生活は比較的マシ。

★

記入者名 :久保有加子 SGQ01704  
避難所名 :渦森小学校  
避難所の住所とTEL :東灘区渦森台1丁目 078-851-3185  
情報提供者名 :  
避難人数 :354  
必要な物(緊急なものには◎)

続き(改行で表示 S:次の発言)  
> オタマ、フライがえし、菜箸、やかん、フキン、包丁、まな板、

皮剥き、茶瓶、茶漉し、スプーン大・小、フォーク、ナイフ、プラスチックの食器、ボール、ザル:仮設の台所ができるの為)、女性用のシャツ

供給過剰な物 :特に無し  
余所への供給 :あり(多少、他の避難所との交流がある)  
人手の過不足 :今のところ足りている(内部の組織化が進んでいる)  
他のボランティア :無し  
医療 :イソジンうがい薬(沢山欲しい)、メジコンせき止め、ダーゼン、エンピナーSP  
ライフライン :電気、電話、下水  
トイレ事情 :良好、プールの水で毎度流している。  
交通事情 :大型トラック不可(タンクローリー等)  
避難者リストの有無 :有  
その他 :内部の組織化がかなり進んでおり、既にボランティアを必要としていません。高校生位の人達がかなり頑張っていました。

★

記入日 :1/28  
記入者名 :久保 有加子(ゆかこ:SGQ01704)  
避難所名 :本山第三小学校  
続き(改行で表示 S:次の発言)  
> 避難所の住所 :東灘区本山中町1-2-35  
避難所のTEL/(FAX) :030-92-09167  
情報提供者名 :山中 なおよし さん  
避難人数 :780(外部・合計1580)  
避難者の構成の傾向 :お年寄りが多い

必要な物、要求（緊急な物には◎）

：缶詰、米、野菜、お肉、（火曜日から自炊施設が整う予定）、栄養のある食べ物、調理器具全般  
供給過剰な物：食べ物に関しては、余る日もあれば足りない日もあり、安定していない  
余所への供給：なし（他の避難所との連携は殆ど無い）  
人手の過不足：今のところ足りている  
他のボランティア：自衛隊  
医療：点滴用ビタミン剤  
ライフライン：電気、電話  
トイレ事情：仮設9台、毎日掃除している（EMの投入と消毒）  
交通、車：トラック可  
避難者リストの有無：有  
その他：内部の組織化が遅れている。ファックスが本日（1/28）中に続き（改行で表示 S:次の発言）  
> 設置される予定

---

○過去の全情報の圧縮アータファイルの配信しております。  
○この情報で活動される場合はフォローの重複を防ぐ為に、現地への電話での確認と会議室へのRESをお願いします。

「情報ボランティアグループ」久保 有加子

---

電子会議（1:発言 2:コメントを読む 改行のみ:読む）通常モード  
>017/463 SGQ01704 久保 有加子 医療品をフォローしました  
(15) 95/01/30 20:45 016へのコメント

本山第一小学校、本山第三小学校について、医療品のフォローを東灘区の保健所に要求しました。

>207/287 GBA02206 金川佳史 ■JET/物資購入資金 提供のお願い■  
(3) 95/02/07 17:55

【義援金のお願い】

現在、資金不足のため物資購入が困難になっています。  
物資購入のために資金援助をお願いします。

被災地では、ほぼ物資は充足してきており、“何でも欲しい”と言う状況ではなくなりつつあります。  
こちらから“適当な物資”を持っていっても、ほとんど”間に合ってます”と言われる様になってきました。

逆に“〇〇が欲しい”と注文をされる様になりました。

また、神戸市などでは物資が停滞しており、物資の受け付けを中止しています。  
（JETではこのような物資をいただき、被災者に届ける事もしております。）  
続き（改行で表示 S:次の発言）

>  
さ、..被災地では多くの商店が営業しており、“何でも買える”状態です。

要望される物資は場合により異なり、しかも”日の単位”で変わっています。  
細かな要望が多く、しかも急ぐ場合がほとんどです。

このような状況から、皆さんから”こちらの欲しい物資”を送ってもらうよりも  
資金を提供していただき、“現地に即応した物資”をこちらで購入するのが最も  
よいと考えられます。

## 2. 救援活動方針並びに計画

名 称 堺ロータリークラブ阪神大震災救援活動プロジェクト

組 織 阪神大震災救援活動本部

本部長 入江会長

事務局 川中幹事

阪神大震災救援活動委員会（略称 救援活動委員会）

委 員 長 阪之上社会奉仕担当理事

副 委 員 長 浅香職業奉仕理事

募金担当委員 小松原副会長

資材調達委員 潮田堺RC基金理事

RMM担当委員 磯野RMM委員長

会 計 坂本会計

### 活動方針

1. 全会員が自らの参加、資金の提供。（募金）  
資材の提供。（必要資材を原価で提供）
2. 被災地区ロータリークラブとの連携による独自性のある活動を行う。
3. 活動期間は今ロータリー年度（平成7年6月末迄）とする。

### 活動計画

被災地ロータリークラブを通じて現地の実体を把握し、状況に則し活動を展開する。  
現時点での計画は下記の通り。

1. 医療支援活動  
ワゴン車にて現地を訪れ、2名程度の医者により、中小避難所を移動して医療活動を行う。
2. 一般支援活動
  - (1)生ジュース配給。
  - (2)うがい奨励セット配給。
  - (3)常備薬セット配給。
  - (4)老人・子供慰問セット配給（玩具・菓子）。

### 3. 不足必要物資提供活動

現地で、聴取するとどうしてもほしい物資の提供が極めて乏しい。(同じ様なものが大量に重複したり偏在している)その時点に応じて求められるものを現地のロータリークラブと連絡をとりつつ把握し促進する。

(小松原 記)

## 2-1 実施年月日・場所

### 第一回救援活動

平成7年2月9日(木)

(1)田中保育所 田中町4-1-1-24	避難者	73名
(2)日本キリスト教団御影教会 御影中町2-3-23	〃	50名
(3)五六会館 御影本町6-4	〃	16名
(4)御影小学校 御影石町1-1-2-1	〃	440名

### 第二回救援活動

平成7年2月16日(木)

(1)甲南本通会館 甲南町3-6	避難者	20名
(2)無量寺 青木町5-5-10	〃	20名
(3)青木都市計画相談所 青木町5-5-7	〃	50名
(4)本庄中央公園 北青木町5-1-6	〃	60名
(5)五六会館 (再)		
(6)浜御影地区福祉センター 御影本町6-2-1-4	〃	40名
(7)日本キリスト教団御影教会 (再)		
(8)田中保育所 (再)		

### 第三回救援活動

平成7年2月26日(日)

(1)本山地区福祉センター 岡本町1-7-3	避難者	51名
(2)森会館・森公園 森南西2-1-0-18	〃	230名
(3)深江見附住宅集合所 深江南町3-5	〃	100名

#### 第4回救援活動

平成7年3月5日(日)

(1)甲南本通会館(再)

(2)森会館・森公園(再)

(3)渦ヶ森小学校 渦森台1-12-1

避難者 110名

#### 第五回救援活動

平成7年3月18日(土)

(1)御影高校 御影石町4-1-1

避難者 730名

#### 第六回救援活動

平成7年3月25日(土)

(1)ベイ シェラトンホテル 六甲アイランド

#### 第七回救援活動

平成7年4月9日(日)

(1)森公園(再)

#### 第八回救援活動

平成7年4月22日(土)

(1)森公園(再)

2-2 現地地図



(埋立中)

## 2 - 3 RMMの救援活動

堺ロータリークラブには医師、歯科医師、薬剤師の専門職業の会員で構成されたRMM（ロータリーメディカルミーティング）がある。その活動は親睦、情報交換等の他、その職業を通して会員や地域の医療に貢献することを目的としている。

今回の阪神大震災に於いてRMMも、救援活動に何らかの方法で参加すべきだとの意見があった。ただ医師会、歯科医師会、薬剤師会などそれぞれの所属する団体で救援活動計画が進められたので、RMMとしてではなく個人的にそれらに参加することにしていった。

その後堺ロータリークラブで救援活動委員会が組織されたので、既に他で出務を登録しており重複する会員もあるが、RMMとしてはやはりクラブの救援活動に参加すべきだと云うことになった。

RMMメンバーの中から入江、磯野、伊藤（篤）、国枝、坂本、西野、福原等と山田（義）の代理として大阪労災病院の伊東、金藤両医師の9名で、毎回1、2名ずつ交代で参加してもらう事に決まった。

現地での野戦病院的な一次救急の時期はすでに終わり、行政、医師会などによって大きな避難所には仮設診療所も次々と開設され、医療救援活動の体制は整っていった。しかしながらあまりにも広範囲な被災地の為に、末端の小さな避難所まではなかなか手が回らないのが実状であった。

RMMでは神戸市東灘保健所の意向を聞き、別記救援活動報告に記載の如く地図を頼りに自転車による往診や、ワゴン車での巡回診療、医薬品の提供などの医療活動を実施し被災者の人達に大変感謝された。

我々の行った診療は、高血圧など高齢者の比較的落ちついた慢性疾患が大部分であった。そのため薬の治療よりは血圧を測ったり、そばでゆっくりと色々な不安の訴えを聞いてその話し相手になるといった事が多く、当時の被災者に最も必要な心のケア一面で僅かながらも貢献することが出来た。

やがて現地の被災医療施設も少しずつ復旧し、地域医療はまだ不完全ながらその機能を取り戻してきたので、我々の救援医療もそちらにバトンタッチをする時期であると判断をし、RMMの奉仕活動を終結させた。

終わりに当たりRMMの参加メンバー、2名の大阪労災病院のボランティア医師、入江医院の米田看護婦の、ロータリークラブで掲げられている奉仕の理想にしたがった献身的な奉仕活動に対し心から感謝の気持ちを捧げるものである。

（入江・磯野 記）

### 3. 救援活動委員会報告

#### 第一回救援活動委員会

日 時 平成7年1月31日（火曜日）15:00～18:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・川中・阪之上・浅香・潮田・磯野・坂本

議 事

委員長及び副委員長担当委員を構成。

支援活動案を審議・検討。

1. 2月の定例理事会で救援活動案・委員会構成・寄付活動の承認を得ること。
2. 2月2日の例会で会長より支援活動の説明、募金の依頼、委員会メンバーの紹介。
3. 救援活動の予算額 1000万円。
4. 2月1日に広報を兼ねた市役所訪問。

#### 第二回救援活動委員会

日 時 平成7年2月2日（木曜日）理事会終了後～19:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・川中・阪之上・浅香・潮田・坂本

議 事

1. 東灘RCとの打ち合わせを会長・幹事・委員長に依頼。
2. 第一回救援活動は2月9日（木曜日）に決定。
3. 救援活動資材及び物資の調達・現地への運搬用レンタカー（運転手つき）手配。
4. 第一回救援活動参加人員の要請。（主目的は医療と物資の配給）
5. 救援資材物資は。  
（発電機・投光機・医療器具・薬品・ウインドブレーカー・ジューサーミキサー  
・子供用菓子・大人用菓子・常備薬・果物・野菜・水・その他雨傘）

#### 第三回救援活動委員会

日 時 平成7年2月7日（火曜日）15:00～17:00

場 所 堺RC事務局



出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田・磯野・坂本  
議 事

1. 第一回救援活動の打ち合わせ。(入江会長より指示)
2. " の資材・物資の点検並びに確認。
3. 再度参加人員の確認。
4. 第二回救援活動は2月16日に決定。

#### 第四回救援活動委員会

日 時 平成7年2月10日(金曜日)14:00~17:00  
場 所 堺RC事務局  
出席者 入江・小松原・浅香・潮田・磯野・坂本  
議 事

1. 第一回救援活動の実施報告。
2. 次回実施日2月16日(木)。準備期間が短かすぎる故に次回は2月26日(日)とする。
3. 3月以降は日曜日に実施。
4. 次回参加者の人選及びローターアクトからの応募者で構成する。
5. 被災地よりの要望物資検討。
6. 次回の救援資材物資の準備。  
(血圧計・聴診器・電気洗濯機・電子レンジ・ジューサーミキサー・ミネラルウォーター・果物・野菜・紙コップ等)

#### 第五回救援活動委員会

日 時 平成7年2月13日(月曜日)15:00~17:30  
場 所 堺RC事務局  
出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田・磯野  
議 事

1. 募金入金状況の確認。(現時点で430万円)
2. 中期的な活動方針の確認。  
(イ) 被災地RCとの連携について、被災地の他クラブと接触。  
(ロ) 会員から堺市内にある被災者受け入れ施設への援助依頼。  
(ハ) 今後の活動のありかた。(汗を流しての活動)

3. 当面の活動計画。(第一回救援活動に準ず)
4. クラブ内の対応。
  - (イ) 会員の参加者応募。
  - (ロ) 2月23日例会にフォーラムを行い会員の声を聞く。

#### 第六回救援活動委員会

日 時 平成7年2月20日(月曜日) 15:00～17:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田・磯野・坂本・川中

議 事

1. 第二回救援活動の実施報告。
2. 次回第三回救援活動も前回と同じようにしてその結果を見直す。
3. 次回は2月26日(日曜日)に決定。
4. 次回の物資調達。

震災後1ヶ月経つと現地の状況が変わって来ている、  
依頼物資の運屋ではいけない。

23日の例会フォーラムで活動計画を検討。

#### 第七回救援活動委員会

日 時 平成7年2月27日(月曜日) 15:00～17:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田・磯野・坂本・川中

議 事

1. 募金の入金状況確認。(現時点で845万円)
2. 第三回救援活動の実施報告。
3. 2月23日例会フォーラムの集約。(別紙に報告)
4. 次回活動計画。(もう医療活動は終わりとする)
5. 次回参加者の募集。(今週例会で、人選にやはり医師の会員を入れる)
6. 次回は3月5日(日曜日)に決定。
7. 次回の救援物資調達準備。

## 第八回救援活動委員会

日 時 平成7年3月2日(木曜日) 14:00~16:40

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田・坂本・川中

議 事

1. 第四回救援活動(3月5日)実施計画のつめ。
  - (イ) 被災地の行政・RC・ボランティアと打ち合わせを密にする。
  - (ロ) ジューサー一器の追加購入。
2. プログラムの変更。
  - (イ) 被災地での医療活動は3月5日で一応打ち切る。
  - (ロ) 準備期間が要する故次回の活動は3月18日(土曜日)に決定。
3. 新しいプログラムについて。
  - (イ) イベントとして炊き出しを重点とす他にクラリネットの演奏・ジュース作り。
  - (ロ) 場所・時間の打ち合わせ 阪之上委員長・浅香副委員長に依頼。
  - (ハ) 炊き出しは、東野会員に依頼。

## 第九回救援活動委員会

日 時 平成7年3月6日(月曜日) 13:00~17:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・浅香・潮田・磯野・坂本

議 事

1. 募金入金は3月6日付で996万円。
2. 第四回救援活動実施報告。
3. 次回の活動計画再度検討。炊き出しはなににするか?
4. 次回は3月18日(土)とす。
5. 東灘保健所とよく打ち合わせして決める。(川中幹事に依頼)
6. 炊き出しの件東野会員に依頼。
7. 他の救援物資検討。

## 第十回 救援活動委員会

日 時 平成7年3月13日（月曜日）13:00～16:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田・磯野・川中

議 事

1. 次回のイベント場所決定。（東灘御影高校避難所運動場）
2. 3月10日現地で炊き出し場所・演奏場所及び炊き出しメニュー打ち合わせ事項を報告。（丼700食分・演奏は堺東RCの稲本会員）
3. 次回救援活動は3月18日（土）に決定。
4. イベントとして炊き出し・音楽演奏・ジュース作り。  
（炊き出しは東野会員に一任依頼・音楽演奏は阪之上委員長に依頼）
5. 16日の例会日に委員長報告で多数の参加を会員に呼びかける。
6. 他の救援物資の調達。（花300鉢）
7. 募金報告。

目標額1000万円を越え13日付で1055万円。

## 第十一回 救援活動委員会

日 時 平成7年3月20日（月曜日）14:00～16:30

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田

議 事

1. 第五回救援活動の報告。
2. 次回3月25日（土）ベイシエラトンホテルにて実施。  
（イ）東灘RC・ベイRC・堺RC・ベイシエラトンホテルの共催とす。  
（ロ）ベイシエラトンホテルから立食1000食分12時～2時の2回各500人。  
（ハ）東灘RCよりピアニスト・フルート奏者堺RCより堺シティオペラ及び稲本氏のクラリネット演奏。  
（ニ）堺RCより救援物資として花鉢提供。
3. 次次回4月9日（日） 森公園でイベント企画。  
（イ）肉うどん200食分炊き出し及び生ジュース提供。  
（ロ）カラオケ大会を行い景品をつけ子供達には福袋を用意。

4. 今後の計画について。
  - (イ) 堺市に入居している被災者の慰問。
  - (ロ) 被災地の状況は急速に変化している、息の長い現地での救援活動を実施。
  - (ハ) 意義のある資金提供先を具体的に検討。  
(委員会これをまとめた上、再びフォーラム開催し会員の意見を聞き実行に移す)
5. 本日現在募金額1056万円。

### 第十二回救援活動委員会

日 時 平成7年3月27日(月曜日) 14:00～16:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・浅香・潮田・磯野・坂本

議 題

1. 第六回救援活動の報告。
2. 次回4月9日の救援活動について 前委員会で決定事項確認、細部川中幹事に依頼。
3. 次次回の救援活動は、4月22日(土)とする。
  - (イ) 場所森公園・リーガロイヤルホテル堺より200食の炊き出し。
  - (ロ) ホテルの都合もあるので交渉は川中幹事に依頼。
4. 今後の活動のあり方。
  - (イ) 再びフォーラムを実施して会員の意志を聞く。
5. 次回救援物資資材の準備。

### 第十三回救援活動委員会

日 時 平成7年4月10日(月曜日) 14:00～16:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田・磯野

議 題

1. 第七回救援活動の報告。
2. これからの活動方針の検討。
  - (イ) 募金をいかに救援活動に使うか。

- (ロ) 4月20日例会フォーラムを開き会員に問う。
3. 次回救援活動日は4月22日に決定。  
場所は森公園にて炊き出し。(リーガロイヤルホテル堺に依頼)
  4. 次回をもって炊き出しイベントを終わる。

#### 第十四回救援活動委員会

日 時 平成7年5月1日(月曜日) 14:00～16:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・阪之上・浅香・潮田

議 事

1. 第八回救援活動の報告。
2. 例会フォーラム(4月20日)の検討。
3. 今後の救援活動の進め方について。  
委員会で会員の声を9項目にまとめ理事会に提出検討。
  1. 外部奉仕団体への資金提供。
  2. 被災地RCへの資金提供。
  3. 地区行政を通じての資金提供。
  4. 堺で災害が発生した場合の問題点の対応策としてシンクタンクに資金提供して提言を依頼する。
  5. 地震計の設置。
  6. 留学生への援助。
  7. 高齢者への支援。
  8. 孤児への支援。
  9. 被災地へ車輛等の提供。
4. 広報について。
  - (イ) ロータリーの友・ガバナー月信等への掲載依頼。
  - (ロ) 堺RC救援活動記録誌の作成。
5. 会計報告をまとめる。

#### 第十五回救援活動委員会

日 時 平成7年5月18日(木曜日) 例会後～17:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・川中・阪之上・浅香・潮田

議 事

1. 理事会で前記9項目を下記4項目に整理して18日例会時に会員に問う。
  1. 他の奉仕団体へ資金援助。
  2. 被災地の留学生に対する支援活動及び資金的援助。
  3. 被災地の孤児、高齢者等への支援活動及び資金的援助。
  4. その他。(意見を)
2. 上記の4項目を例会で2項目に決定。
  1. 東灘RCと共に、被災留学生に対する支援活動に300万円程度を提供する。
  2. 東灘福祉協議会に、高齢者運搬用リフト付きワゴン車を提供する。  
300万円の予定。

第十六回救 援 活 動 委 員 会

日 時 平成7年6月8日(木曜日) 例会後～17:00

場 所 堺RC事務局

出席者 入江・小松原・川中・阪之上・浅香・潮田

議 事

1. 東灘社会福祉協議会へワゴン車寄贈。  
贈呈式は6月17日(土)14時 東灘区役所にて行う予定。
2. 被災留学生に対する支援。  
被災留学生支援実行委員会(外務省・大阪府・国際協力事業団等)を通して東灘にかかわる特定留学生を約100名に対して300万円を提供する。  
贈呈式は1. と同時に行う。  
二つのプロジェクトも東灘RCと共同で企画したもので東灘RCも別途一部資金を提供する。
3. 記録誌発行。

(小松原 記)

## 4. 救援活動報告

### 第一回 救援活動

実施日 平成7年2月9日 木曜日 晴れ

参加者 入江会長・浅香・国枝・宍戸各会員・天正事務局員・大阪労災病院伊東医師  
・入江医院米田看護婦・STS伊藤運転手

午前7時南海難波駅に集合出発、JR住吉駅8時着・直ちに東灘保健所へ。保健所には1981-2年度R I 第2680地区パストガバナー坂本智之氏の出迎えをうけ、保健所長石井昌生氏、本田課長に挨拶し、次にボランティアリーダー森氏に少し遅れて東灘RC幹事の畑尾氏来所、直ちに本田課長より本日の救援避難所3ヶ所の指示を受けてボランティアの大原氏の案内で避難所へ。

STSの車は道路渋滞のために大巾に遅れ、10時過ぎ徒歩にて出発。労災の伊東医師は医療の行き届かぬ避難所に自転車で地図を頼りに9ヶ所巡回往診をして頂く。

医師の巡回往診場所・魚崎西町公園・魚崎西町南公園・八幡神社・魚崎南公園・北青木老人センター・北青木集会所・川口公園・横屋会館・瀬戸保育所・それぞれの被災者から大変感謝される。

本日の目的は第一に医療奉仕・次に救援物資の配給・高齢者子供の慰問である。道中、連日報道されている震災被害状況を今日で見ると予想以上で、もしこれが堺に起きていたら我々はどうなっていたであろうかと思うと正に戦慄を覚えた。

2月の東灘区は六甲山からつめたい風が吹き下ろして非常に寒い所、暖房の無い避難所の方々は大変な生活を余儀なくされている。

#### (1) 田中保育所

元気な方は勤め及び復興に出られ不在の人が多く老人女性ばかりで、幸い水道・電気は復旧しているがガスはまだ。

救援物資の新鮮な果物を配る、特にトマトが大変喜ばれた。

子供は不在故に大人用の菓子と常備薬袋詰めを分配す。

持参のジューサーミキサーを見て貸与して欲しいとの要望で置いておく、又中古でもよいから二層式洗濯機を要望されたので次回のおり持参すると約束す。





この付近はとくに倒壊家屋が多いのが目につく。  
幸いこの避難所には病人がおらず不幸中の幸いであった。

#### (2) 日本キリスト教団御影教会（兵庫地区クリスチャンセンター）

この避難所も昼間は高齢者ばかりで50人中15名程おられて電気は復旧、水は給水車で。新鮮果物・常備菜・菓子等を配り、国枝会員が患者3名を診察。ここでもジュース・ミキサーの要望があり置いて帰る。当避難所には井戸があり、時々入浴が出来る。長期家財道具の保管の要望あり。

#### (3) 五六会館

前避難所と同じく救援物資を分配し被災者の声を聞く、電気は復旧しているので食事を暖める為に電子レンジの要望があり次回持参を約束する。水は給水車による。

#### (4) 御影小学校

ボランティアの大原氏の案内で大避難所の御影小学校（被災者400人）に医師が常駐しておりボランティアの方々が大規模な炊出しをしていた。

救援物資の残量を分配して帰路に。

本日の救援物資 トマト・リンゴ・バナナ  
・オレンジ・子供大人用菓子・常備菜袋  
詰め・他にカイロ・牛乳・ミネラル  
ウォーター・紙コップ・消毒綿。

日頃あまり歩かれない会員の方々早朝より一日汗をながしながら被災地を歩いているの救援活動を実施して頂いた。

一同STSの車で5時無事帰郷。



### 第二回 救援活動

実施日 平成7年2月16日 木曜日 晴れ時々曇り

参加者 阪之上委員長・浅香副委員長・西野・磯野・中田・各会員・天正事務局員・大阪労災病院金藤医師・STS伊藤運転手

午前7時30分JR新今宮に集合出発・JR住吉駅8時30分着・前回と同じく東灘保健所へ。東灘RC福田副会長と共に、石井所長・本田課長に挨拶、本日の救援活動を打ち合わせ、ボランティア松島氏・山名氏の案内で徒歩で目的に向かう。STSのワゴン車

は予定通りに到着、労災の金藤医師は前回と同じく別行動、自転車で14ヶ所の広範囲を巡回往診をして頂く。医師の報告によると被災地のホコリで目を悪くしている人が多い、不安の為夜眠れぬ人あり。

本日は8ヶ所にて救援活動実施。

(1) 甲南本通会館

殆どが勤務又は復興の為に不在。前回と同じく新鮮な果物・使い捨て什器を手渡す。配給下着はM寸の為にL寸が欲しいとの要望あり。

(2) 無量寺

前の避難所から歩いて30分のお寺なので震災死亡者の遺骨が多数安置されており、御冥福を祈る。お供えの果物が多くあり、果物不要とのこと、ジュース・ミネラルウォーターの要望あり、その他延長コード・コップ等進呈。

(3) 青木都市計画相談所（青木老人いこいの家）

被災者の殆どは老人、風邪ひきの人が多く西野会員の診察を受ける。新鮮果物と電子レンジ・紙コップ等を進呈。

(4) 本庄中央公園

テント張りの避難所、自衛隊も駐屯しておりテント生活は何かと大変なことで、2月といえば一番寒い時期、暖房に石油ストーブを使用されていた。電子レンジが大歓迎され、新鮮果物・蜂蜜・常備薬袋詰め等を進呈す。



(5) 五六会館（再）

前回訪問した避難所、後日電話にて依頼のあった砂糖・トイレトペーパー・醤油を手渡しに行く。

(6) 浜御影地区福祉センター

五六会館避難所の依頼で電子レンジを希望されているので届けに行く。即座に使用。

配給食事は冷たく暖かいものを望んでおられる。

(7) 日本キリスト教団御影教会（再）

前回訪問、後日電話依頼でカセットボンベ10本と新鮮果物・常備薬を進呈、風邪ひきの人が出て西野会員が診察。

(8) 田中保育所（再）

前回約束済の二槽式洗濯機と延長コードを渡す。

午後4時無事帰塚。



**第三回 救援活動**

実施日 平成7年2月26日 日曜日 晴れ

参加者 小松原・入江・大澤・伊藤（篤）・坂本・川中・西座（新）各会員と西座会員のお嬢さん・STS伊藤運転手

JR新今宮午前7時30分集合・出発、JR住吉駅8時30分着・直ちに東灘保健所へ、東灘RC徳井会長・福田副会長の出迎えをうける。石井所長に挨拶をし所長より現行政のありかた等を拝聴、末端の避難所に対して細く長くの希望あり。今日の避難所3ヶ所の指示を受けボランティアの案内なく地図を頼りに徒歩で第一の避難所へ。



ビル・家屋の取り壊しで大変なほこり、天気が良いので汗をかきながら崩壊家屋の中をぬけて避難所に着く。

### (1) 本山地区福祉会館

主に老人の被災者が中心で暖房がないが皆元気、現状に不満はないこれ以上言うと贅沢になるとの老人の言葉が身にしみる。物資の新鮮果物のイチゴ・トマト・伊予柑・リンゴと電子レンジ・男女下着等を置く。次の避難所へ行く道を聞き瓦礫のなかを歩く。

### (2) 森会館・森公園

やっとのことで避難所に着く丁度ワゴン車も無事到着。ボランティア団体が炊き出し餅つき大会を実施しており某テレビ局が取材中、このイベントと共に生ジュース作りをして被災者の皆さんにのんで頂く、なかなか旨いと好評、家では縦のものを横にしない会員も不慣れな手つきでリンゴをむいて、被災者の奥さん



にも手伝ってもらいジュース作り、素人作りには上出来、会員も満足、充実した活動が出来た。

1時頃終了余ったリンゴ、人参と物資の伊予柑、イチゴとジュース作りに使用のポリバケツ、包丁を被災者に進呈し電子レンジ、男女の下着をテント村に置く、出来れば靴下もとの要望があり、テント村立花村長より息の長い支援活動を期待しますと言われ本日は有り難うございましたと頭を下げられた。

公園の空き地で遅昼食を、第一回～第二回救援活動のおりは弁当も入手困難故に今回入江会長が手作り弁当の差し入で皆空腹をみたす。

東灘RC福田副会長に今までお手伝い頂きここで別れる。

ワゴン車の荷物も少なくなったので全員車で次の避難所へ。

### (3) 深江見附住宅集会所

深江住宅は11～12階建の立派な建物であるが1階の柱が壊れ取り壊しの為、此处で仮設住宅があたるまで頑張るしかない。

あまり被災者の方と話すことなく、担当者に電子レンジ・リンゴ・伊予柑・イチゴ・下着等を渡す。

一同ワゴン車で被災地を見ながら国道45号線阪神高速高架落下地点を通り国道2号線沿いの瓦礫を見て保健所へ。所長に今日の活動報告並びに挨拶をして帰路。日曜日の

ため交通渋滞もなく無事帰塚。

#### 第四回 救援活動

日時 平成7年3月5日 日曜日 曇 晴

参加者 潮田・児島・福原・川中・東野・宍戸・各会員・上田・藤原・RA各会員・天正事務局員・STS伊藤運転手

午後1時30分JR住吉駅に集合直ちに東灘保健所へ。石井所長に挨拶、今回は川中幹事が事前に打合せしておいてくれたのでスムーズに実施ができた。午前中に東灘RC畑尾幹事が出迎えにこられた由。



#### (1) 甲南本通会館 (再)

先日2月16日要望の肌着(L寸)数箱贈呈、感謝される。避難所としては役目を終えているかの観あり。

#### (2) 森会館・テント村 (再)



第三回救援活動の折り約束の電子レンジ・肌着・靴下を、今回は被災者の方に花のプレゼントを、皆大変喜ばれ心がなごむと。村長の指揮下で計画的に動いているが、ここではテントが生活の場となっている。イベントで希望されるのは焼き肉・たこ焼き。

#### (3) 渦が森小学校

被災者の夕食にあわせて生ジュースを作り飲んでもらい、各部屋に花を配る。福原会員が4～5名診察をされた。医者が来てくれたことを大変喜んでもらい、まだ避難所により医療の必要を感じた。ジュースと果物を寄贈すると驚き大変喜んでもらう。ボランティアで学校の先生が交代で参加され世話をされていた。配給の弁当をご馳走に

なる、毎日このような食事を食べられる苦労を実感。この避難所は高台の高級住宅地にあり生活に大変な差がある様だ、然し被災者の方は礼儀正しく、謙虚な姿に心打たれた。

現地午後7時10分帰路に午後9時15分無事帰塚。

## 第五回 救援活動

実施日 平成7年3月18日 土曜日 晴れ

場 所 県立東灘御影高校

参加者 阪之上・小松原・浅香・渡辺・倉・陶・穴戸・東野・大島各会員・橋本・堀本・畑崎・神田各会員と夫人・上田・葉山・藤原RA会員・天正・穴口事務局員・堺東RC稲本会員・神田会員の川上社員・星光(株)調理師14名・STS伊藤運転手

午前8時30分阪神梅田駅に阪之上委員長以下24名集合、出発9時30分県立御影高校着、浅掘教諭に挨拶。小松原・浅香はJR住吉駅で待合わせて9時東灘保健所の石井所長に挨拶、本日の炊出と次回3月23日と4月9日の予定を説明した。すでに星光(株)の方達は炊出し設営に、救援隊は演奏会場及び生ジュース作りの設営並びに材料準備と炊出しの手伝い準備をする。本日のイベントは炊出し鰻丼500食、牛丼200食の予定それらにみそ汁と漬物、クラリネット演奏、生ジュースの配給と花のプレゼント。



### 1. 炊出し

11時頃から150名位並びはじめたので浅掘教諭の指示で11時30分から配給を始める。指示に依り一人当たりの個数は制限しなかったもので、一人で十数個持ち帰る人もあり12時過ぎには品切れ状態、まだ250名位の行列故に急遽予備米を炊いて魚市場から好意の鯖の差し入れで鯖丼を100以上作り一人一個の配給で炊出しを終る。約900食以上。忙しいことプロでないと出来ない技である。



## 2. 生ジュース作り

多くの女性のかたが主力となって野菜・果物ジュースを作る、星光の方の指導もあり多数の行列者に十分に味わってもらおう。ビン詰めのジュースとひと味違うとあって、何杯もおかわりされる方もあり作る側にも汗を流すかいがある。

## 3. 演奏会

堺東RCの稲本会員によるクラリネットの弾き語りに被災者の気持ちを癒し、涙ぐむ婦人もいた。

## 4. 援助物資として花300鉢を被災者の方に配り本日のイベントを終る。

3月でもまだ被災地はうすら寒い幸い雨も降らず一日充分な活動が出来た。早朝より東灘RCの会長・副会長・会員の方々の手伝を頂き第2680地区パストガバナー坂本氏からお礼の挨拶をうける。

この度は被災者の方に大変喜んで頂いたが炊出し配給に苦情があった事に反省する。今回の支援記事を新聞に掲載した故に各避難所の方も来られた様だ。あと片付けを終えて避難者用のパンと牛乳を昼食に頂き、午後2時30分帰路に、全員無事4時頃帰塚す。

## 第六回 救援活動

実施日 平成7年4月25日 土曜日 晴れ

場 所 神戸六甲アイランド・ベイシェラトンホテル

参加者 阪之上・浅香・安則・各会員・堺東RC稲本会員夫妻・渡・響・子息・堺シティオペラ・尾上・高内・矢川・椋本・小貫・源氏・晴・加納

東灘RC・ベイRC・堺RC・ベイシェラトンホテル共催で復旧なって明日開業という前日のベイシェラトンホテルで六甲アイランドの被災者約700人を迎え（がんばろやWe Love-KOBE）コンサートを開催した。

東灘RCよりフルートの橋口喜美子・ピアノの山本京子・古川知子各嬢、堺RCより堺シティオペラのメンバーと稲本一家のクラリネットとピアノの演奏が提供された。



12時30分からと14時からの2回にわたる熟演は被災者の方々に大きな感銘をあたえた。特に多数訪れた児童・幼児は舞台にのぼったり、オペラ歌手に抱いてもらったりで大はしゃぎの中に楽しい午後のひとときが流れた。

ベイRC・ベイシェラトンホテルより提供されたビフェスタイルの軽食に参加者一同久し振りにホテルの味を堪能していた。



### 第七回 救援活動

実施日 平成7年4月9日 日曜日 雨

場 所 森公園

参加者 大澤・潮田・児島・熊野・宮崎・川中・原田・谷・伊藤（昭）・明光・各会員  
・入江・柴田（廣）・神田・奥野・浜田・各会員と夫人・天正・穴口・事務局員・STS伊藤運転手

午前9時にJR摂津山本駅に集合、徒歩にて森会館避難所森公園に向かう。大澤パストガバナーと東灘RC福田副会長は東灘保健所石井所長に挨拶。今回もイベントを主に肉うどん・生ジュース・カラオケ大会を実施する。現地に到着した頃より雨が降り始めた、その中テント張り・椅子卓子の配置、作業器具材料の準備、カラオケ会場及び器機



の設置等を避難所の方も共に全員で行う。炊出し肉うどんのしたごしらえを主に女性の方に、生ジュースの果物の下ごしらえ、デザートのにちご洗いをしてもらい、11時30分より肉うどんの炊出しを開始して避難所の方々に食べていただく。

雨が止まない故に予定時より早めにカラオケ大会にはいる、賞品は大奮発して家庭用品の電気釜・電子レンジ・トースター等、参加者全員に時計を進呈する。子供達にはゲームボーイなどの入った福袋を。

会場で入江会長・立花村長の審査員で、当地出身の笑福亭竹林師匠の特別参加で司会を務めて頂き爆笑のなか高齢者から児童迄雨おも吹き飛ばす勢いでデザートのにちご・ジュース・ビールを飲みながらカラオケ大会を無事終了する。後片付を済ませて避難所の方々からの感謝の挨拶を受けてた。



今回は雨に祟られ被災者の出足が悪かったが、カラオケで少しでもストレスを発散して頂いた事と思う。残りの牛肉・果物も喜んで貰って頂き、雨の中で充実した活動が出来た。

現地の方々に挨拶し現地解散して帰路に。



### 第八回 救援活動

実施日 平成7年4月22日 土曜日 雨 曇

場 所 森会館避難所 森公園

参加者 播本・阪之上・浅香・河盛・原田・川中・各会員・リーガロイヤルホテル堺調理師



東灘RCから徳井会長・坂本パストガバナーが来場された。前回と同じく森公園避難所で雨がばらつくなかホテルの調理師が腕をふるっての炊出しビーフストロガノフとサラダを被災者の方々に味わって頂く。はじめ150食の予定がなかなかの好評で、予定を大巾に170食となりさすがホテルの味と満足された。森公園での活動は2回共

雨に祟られ大変なイベントであったが盛会裡に終わる。

今回をもって救援イベントを終了させてもらう。



## 第九回 救援活動

日 時 平成7年6月24日 午後2時

場 所 東灘区役所

参加者 入江会長・小松原・阪之上・浅香・川中・各会員・東灘RCより坂本パストガ  
バナー・福田副会長・畑尾幹事・大野会員

フォーラムの結果で決定した通り東灘福祉団体に高齢者移動に必要なリフト付き車輦一台、被留学生支援金を支援団体にそれぞれ寄贈する。

(小松原 記)



## 5. クラブフォーラム記録

### 第一回フォーラム

日 時 平成7年2月23日 木曜日 例会13:00～14:00

議 題 阪神大震災への救援活動のあり方について。

A・Bの2グループに分かれ実施。

会員の主なる発言要旨下記の通り。

1. 被害地への救援活動は時宜に適した奉仕活動といえる。  
会員は出来る限り救援活動に参加して、現地の惨状を自分の目で見るとべきである。
2. 活動範囲を東灘地区に限定し、継続的に援助すべきである。
3. これ迄のやり方は運び屋で充実感に乏しい。
4. 状況は時々刻々変化しているので新しい発想でのぞんで欲しい。
5. ロータリアンの平均年齢は比較的高くその行動に限界があると思われるので次のような方法は如何。  
(イ) 募金の内から500万円位程度を東灘RCに委託して救援活動の一翼をになってもらう。  
(ロ) 現地の機関・例えば大学のボランティアグループに資金面の援助をする。
6. 奉仕の方法は色々考えられるが被災地の要望を適確に把握し現地でよろこば

## 第九回 救援活動

日 時 平成7年6月24日 午後2時

場 所 東灘区役所

参加者 入江会長・小松原・阪之上・浅香・川中・各会員・東灘RCより坂本パストガ  
バナー・福田副会長・畑尾幹事・大野会員

フォーラムの結果で決定した通り東灘福祉団体に高齢者移動に必要なリフト付き車輦一台、被留学生支援金を支援団体にそれぞれ寄贈する。

(小松原 記)



## 5. クラブフォーラム記録

### 第一回フォーラム

日 時 平成7年2月23日 木曜日 例会13:00~14:00

議 題 阪神大震災への救援活動のあり方について。

A・Bの2グループに分かれ実施。

会員の主なる発言要旨下記の通り。

1. 被害地への救援活動は時宜に適した奉仕活動といえる。  
会員は出来る限り救援活動に参加して、現地の惨状を自分の目で見ることが出来る。
2. 活動範囲を東灘地区に限定し、継続的に援助すべきである。
3. これ迄のやり方は運び屋で充実感に乏しい。
4. 状況は時々刻々変化しているので新しい発想でのぞんで欲しい。
5. ロータリアンの平均年齢は比較的高くその行動に限界があると思われるので次のような方法は如何。  
(イ) 募金の内から500万円位程度を東灘RCに委託して救援活動の一翼をになってもらう。  
(ロ) 現地の機関・例えば大学のボランティアグループに資金面の援助をする。
6. 奉仕の方法は色々考えられるが被災地の要望を適確に把握し現地でよろこば

れるものであれば良しとすべきである。

## 第二回フォーラム

日 時 平成7年4月20日 木曜日 例会13:00～14:00

議 題 救援活動について。

前回同様A・Bの2グループに分かれて実施。

以下会員の発言要旨。

1. 震災発生後3ヶ月を経過した今は各方面からの救援物資も多く現在では重複過剰の感があることを考慮すべきである。  
又食糧の配給も整備されてきているので現地での炊出し等は中止すべきである。
2. 今後救援基金の使途については分散することなく重点をしぼっては如何。
3. 地震計の寄付はシステムが伴うから無理である。
4. 夏を迎えてテント村に扇風機・冷蔵庫の支援を考えては如何。
5. 両親を震災で失った孤児数十名あり、援助の手を差しのべるべきである。
6. 留学生の宿舎などへの寄贈がある。
7. 留学生に対する援助は米山の組織を活用しては如何。
8. 六甲アイランドの仮設住宅の歩行困難な老人の足としてリフト付き車輛の寄贈要望が東灘社会福祉協議会より寄せられている。
9. 高齢者に対する援助もよいが彼等も彼等なりに自助活動出来る態勢を考えるべきである。  
(浅香 記)

## 6. 外部団体への寄贈

5月定例理事会及び5月18日例会での支援活動アンケート調査の結果、

1. 東灘福祉団体へ高齢者移動に必要なリフト付き車輛の寄贈。
2. 被災留学生支援金の支給。

上記の通り実施することになり、車輛は神戸市東灘区社会福祉協議会へ、被災留学生支援は被災地区在籍の留学生145名に一律3万円の義損金を支給。

### 贈呈式次第

#### (1) リフト付き車輛贈呈式

平成7年6月24日(土曜日)午後2時より神戸市東灘区役所区長室に於いて東灘社会福祉協議会に対し高齢者移動に必要なリフト付き車輛(日産バネットチェアキャブ)の贈呈式を行う。

出席者

東灘区役所 細目区長 藤井副区長 飯島主査

東灘保健所 石井所長

東灘福祉事務所 室井副所長

東灘社会福祉協議会 藤井理事長

東灘ロータリークラブ 坂本パストガバナー 福田副会長 畑尾幹事 大野会員

堺ロータリークラブ 入江会長 小松原副会長 阪之上委員長 浅香副委員長

川中幹事

#### (2) 留学生支援金贈呈式

平成7年6月24日(土曜日)午後2時30分より東灘区役所分室に於いて行われる。

出席者

東灘区役所 飯島主査

SESCO 山口理事長、中副理事長

東灘RC 坂本パストガバナー、福田副会長、畑尾幹事、大野会員

堺RC 入江会長、小松原副会長、阪之上委員長、浅香副委員長、川中幹事

入江会長より両ロータリークラブを代表して山口理事長に被災留学生支援金¥435万円の小切手が贈呈された。これに対して山口理事長より両ロータリークラブに感謝状と預り証がおくられた。

被災留学生支援は5月中旬に東灘RC及び支援先の「被災留学生支援実行委員会」(青年海外協力隊OB会を初めとする各種8団体で構成)と具体的な支援活動の準備に入ったが、罹災日より日時が相当経過しているため指定寄付に関する災害特別法適用に

問題がある事が判明した。税務上の案件処理のため「被災留学生支援実行委員会」の主たる支援団体であるSESCO(世界の子供たちに学校を贈ろう会)と調整を計った結果、SESCOの御協力を得て被災留学生に直接支援金を贈ることになった。(川中 記)

# 神戸市東灘区社会福祉協議会へ車輛贈呈

## 贈呈式次第

平成7年6月24日（土曜日）午後2時より神戸市東灘区区役所区長室に於て、東灘区社会福祉協議会に対し高齢者移動に必要なリフト付き車輛（ニッサンバネットチェアキャブ）の贈呈式を行う。

### 出席者

東灘区役所 細目区長 藤井副区長 飯島主査

東灘保健所 石井所長

東灘福祉事務所 室井副所長

東灘社会福祉協議会 藤井理事長

東灘ロータリークラブ 坂本パストガバナー 福田副会長 畑尾幹事 大野会員

堺ロータリークラブ 入江会長 小松原副会長 阪之上委員長 浅香副委員長

川中幹事

定刻出席者全員立会のもと協議会理事長藤井大心氏（中勝寺住職）に贈呈者堺RC・東灘RC両者を代表して入江会長より目錄を贈呈。

これに対し藤井理事長より両者に対し夫々感謝状がおくられた。

引続き入江会長より今日に至る迄の経緯につき挨拶、続いて東灘RC福田副会長より震災発生以来被災地によせられた堺RCの並々ならぬ救援活動に対し深くお礼申し上げるとの謝辞あり2時30分無事贈呈式終了す。 (浅香 記)

## 目 録

### 1. ニッサンバネットチェアキャブ 1台

右神戸市東灘区の復興と社会福祉の充実を願い贈呈致します。

平成7年6月17日

堺ロータリークラブ

会長 入江 正治

神戸東灘ロータリークラブ

会長 徳井 敬三

社会福祉法人

神戸市東灘社会福祉協議会

理事長 藤井 大心様

## 7. 阪神大震災救援募金収支報告

### 収 入 (円)

会員寄付	10,860,000
東灘RC寄付	100,000
米国サウスベニスRC寄付(\$1,000)	80,176
ミリオンダラーミール余剰金	400,000
預金利息	4,378
合 計	11,444,554

### 支 出

救援活動費	3,585,470
被災留学生義損金	4,350,000
東灘福祉協議会 (ワゴン車購入費)	3,000,000
救援活動記録印刷費	300,000
ニコニコ箱へ寄付	209,084
合 計	11,444,554

(坂本 記)



## 8. 委員長挨拶

### 救援活動を終えて

救援活動委員長 阪之上 清以彌

ロータリークラブ入会以来、内外におけるさまざまな形での災害救援の呼びかけがあったが、申訳ないことながら感覚的に距離のある受止めかたしか出来なかったように思う。平成7年1月17日に私達の住む堺と海をへだてて目と鼻の先の対岸で起きた阪神大震災は、まさに災害救援についての奉仕のあり方を問う、類い稀な大事件として私達の目の前につきつけられたものであった。直ちに目標額に達した1000万円余りの募金額は勿論のこと、五ヶ月間にわたるこの救援活動を通じて会員のみなさんが示されたクラブに対する御協力は深い感動をよぶもので、クラブが一体となって行う事が出来たこの活動が必ずや今後の堺ロータリークラブの奉仕活動を支えるものになる事と信じる。

特にその中でとりあげられるべき事が二つある。先ずロータリーの奉仕活動の原点であり、基本であるといわれる「団体で学び」「団体で示し」「団体で実行する」ことを実践出来たことであった。この活動の当初から入江会長が「みんなで汗を流す」ことを説かれ、延べ100名に及ぶ救援キャラバン隊参加者を現地に送り込んで数多くの被災者関係者の感謝を受けることが出来た。次に最も被害の大きかった東灘地区、この現地の東灘RCと連携を保ちつつ活動が展開出来たことである。東灘RCのお力を借りることによって、不案内な土地である上に、刻々と変わる被災地の状況に対処出来、現地関係者と速やかにかつ適確にコンタクトが出来た。二つのRCがお互いに手を取合って実現したこの活動は、奉仕のあり方として大きな成長であったと考える。御自身が被災され大変な中でどのように御協力下さった事に深く感謝したい。

ロータリー年度末が近づいた平成7年6月24日、我々の活動の最後のしめくくりとして東灘社会福祉協議会へ介護運搬車一式と、被災留学生145名への援助資金の贈呈式が東灘区役所で行なわれた。その同じ場所で五ヶ月前に展開されていた光景・遺体安置室がまだ残されていて、区役所、保健所の職員と大勢のボランティアと大勢の被災した人々が興奮状態でごった返していた、あの異様な雰囲気は既に遠き昔のように思え、出席された区長・保健所長など現地関係者のお顔も、東灘RCのメンバーのお顔も、大きな被害から立ち直った自信と明るさにあふれ、いかなる困難であっても努力と忍耐があれば時間が解決するものである事をつくづく痛感した。

最終例会にわざわざ「お礼に」と来堺された東灘ロータリークラブ、坂本バスターガバナー、徳井会長、福田副会長と例会後に事務局で会談した時、長くて短かったこの五ヶ月のもろもろの思い出が頭をよぎった。初めて被災地に足を踏み入れた時のあの悲惨な

ありさまの驚き。避難所となった学校やテント村でのさまざまな出来事やエピソード。救援キャラバン隊出発に展開された事務局でのあわただしさ。運営について委員会での深夜に及ぶ激論。奉仕のあり方について数度にわたるフォーラム等での真剣で活発な会員間の議論等々。その席で徳井会長から神戸市長が我々の奉仕活動に対して感謝状を準備中である旨のおはなしがあったが、会員のみなさんの奉仕に捧げていただいた時間の貴重さは神戸市長からの感謝状に充分値いするものと思われる。

最後にこの突然の、しかも時間に余裕のない活動の為に献身的に取り組んでいただいた天正・穴口両事務局員に深く感謝する次第である。

## 9. 感謝状・礼状（写し）

堺ロータリークラブ様

平成7年3月

兵庫県立御影高校避難所

浅掘 裕  
避難者一同

寒さもようやくしのぎやすくなった今日この頃、皆様方におかれましては、益々御健勝のことと存じます。

さて先日は心のこもった実用的な救援物資やおいしいお食事の御提供、誠にありがとうございました。避難所一同大変喜んでおります。

皆様のお心遣いのおかげで、被災地神戸の街も少しずつ活気を取り戻してきたように思います。震災直後は家を失くし、最愛の家族・友人を失くした悲しみだけの日々でしたが、皆様のお力添えで救われ今では頑張っで行かねば、という強い意志を持ち、毎日を暮らしています。

これから先も一人一人の生活を元に戻すことから、そして神戸の街・御影の街の復興に全力を尽くす所存でございます。

何卒御支援の程、よろしくお願い申し上げます。  
まずは御礼まで。

森公園テント村より

阪神大震災から早100日を迎えました。

季節は確実に巡って来ます、公園も桜が散り五月が咲き始めました。

私達もこれを機会にテント村を解散し自立することになりました。

皆様にはその節は大変お世話になり心より感謝致しています。

皆様からお受けした御恩は生涯忘れることは出来ません。

まだまだこれから前途多難の日々が続きますが、一步一步確実に立ち直りつつあります。どうぞご安心下さい。本来なら参上の上御礼申し上げるべき処、非常の際で念が足りないことをお許し下さい。ありがとうございました。

平成7年4月27日

堺ロータリークラブ様

森公園テント村

村長 立花 武  
避難者一同



# 感謝状

堺ロータリークラブ 会長入江正治様  
神戸東灘ロータリークラブ会長徳井敬三様

あなたは神戸市東灘区社会福祉協議会にニッサンバンネット 売台の  
寄付をされ社会福祉の向上に  
寄与するところが大きであります  
よってここに深く感謝の意を  
表します

平成7年6月17日

社会福祉法人神戸市東灘区社会福祉協議会

理事長 藤井 大八

東灘区長 細目 正彦





# 感謝状

堺ロータリークラブ  
会長 入江正治 殿

貴クラブの弊会「阪神大震災  
被災留学生支援活動」に対する  
多大なるご支援に対し深く感謝  
の意を表します

平成7年6月17日

世界の子どもたちに学校を贈

理事長 山口正

世界の子どもたちに学校を贈る  
理事長の印



# 感謝状

堺ロータリクラブ

1994-95年度

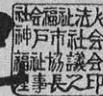
会長 入江正治 様

あなたは社会福祉事業に深い理解  
を示され市民福祉の向上のために  
多額の金品をご寄贈されました  
ここに平成7年度神戸市社会福祉  
大会に際し深く感謝の意を表します

平成7年9月7日

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会

理事長 高橋省己





# 感謝状

堺ロータリークラブ様

阪神・淡路大震災に際し困難な状況  
のなかで応急復旧に必要な機材等の  
迅速な提供をされ人々の心にやすぎを  
与えるなど市民生活の安定に大きく  
寄与されました

神戸の復旧復興に向けての多大な  
貢献に対しその功績をたたえ深く  
感謝の意を表します

平成7年9月11日

神戸市長 筈山 幸徳



## 10. 編集後記

この度の阪神大震災救援活動は会員の方々の多大なご支援のもと2月より5ヶ月間東灘RCと連携して会長の言葉通り「汗を流しての奉仕」を実施した。

救援活動を記録すれば計画通りに秩序正しく実施されたように見えるが実は試行錯誤の連続で、現地に行っても何から手をつけてよいか途方に暮れた次第、従って第一回から第四回迄は出来る限り多くの避難所を訪問し何が最も必要なのか、その方法手段はどうすればよいのかを学びこの経験を基に逐次実施した。

又時々刻々と変化する現地の状況はパソコン通信のネットワークを駆使して最新状況を入手しその判断基準に供した。

2月末には現地も落ち着いて来て救援の重点目標を定めることが出来た。

3月からは会員の家族の方々にも参加して頂き炊出し等も出来るようになり、4月にはコンサートやカラオケ大会も現地で開催した。

5月末には避難所も解散することなので今後の方針決定の為クラブフォーラムを2回開催し全会員の意見を伺い外部団体に寄贈することになり、被災された老人福祉用の自動車・留学生支援金を贈呈、6月末で救援活動を終了した。

このような救援活動が出来たのも会員の100万円以上のご寄付と種々の救援物資の寄贈並びに原価提供に依るもので、特に医療の届かぬ所へ自転車で巡回診療をされた医師の方々、早朝より運転されたSTSの運転手、更に献身的奉仕をされた事務局員に厚くお礼申し上げます。

この報告書を書き上げた時は震災時より早半年以上が経過、復興も徐々に進み行く様子、何卒今後幸多かれと祈りつつ筆を措きます。

平成7年8月

(潮田 記)